

「完全無欠の無罪救済を勝ち取る血による贖い」

エペソ人への手紙

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

私は昨年2月まで月に1回、WWJDという会で聖書のメッセージを語っておりました。ニューオータニというホテルが大阪城の真ん前であって、そこで聖書の話をも月1回して来たんです。下は中学生から上はビジネスマン・社会人 第一線の90代になるまで現役という方も含め、色んな方が参加してくださって楽しかったんですが、残念なことにコロナ蔓延で一年半くらい中止なんです。

WWJDは何の略かというとなら What would Jesus do? の頭文字で、“イエスだったら どうなさるのか？” という意味があるんですね。

クリスチャンの場合、何かの判断を求められた時、あるいは選択の場に立った時に、“どちらを選んだらいいんだろう。” 迷って分からないような時には、“イエスが同じ立場なら どちらを選ぶだろうか。イエスは どう考えられるだろうか。イエスなら どうなさるだろうか” を考える。これが、1つの有効な判断基準になるということなんですね。それで WWJD と言うんです。

が、先日 YouTube を見ていたら、WWYD という番組に気づいたのです。

アメリカの番組で、WWYD だから What would you do? “あなただったら どうします？”

これは簡単に言うと “ドッキリ” なんです。“ドッキリ” って分かりますか？ 出演者を騙してイタズラか何かを仕掛け、隠しカメラなどで、その人がどんな反応をするか見る。

僕はそういうのは好きじゃないです。好きじゃないけど、番組のタイトルが似てるから、ちょっとつい見てしまったけど、いや～、良かったですねえ。

スーパーマーケットでレジにお客さんがズラッと並んでいて、先頭でかなりご高齢のおじいさんがレジの人と精算やってるんです。「12ドル33セントです。」「あ～、そうですか～」

支払いはもちろんスマホじゃなくて現金ですが、袋から小銭をばらばらばら。殆ど1セント硬貨。「あなた、これで払うんですか？」「これしか無いし…」と1枚1枚、1,2,3,4 数え出すけど、途中で数えたら「あ、合計いくらでしたか？」「12ドル33セントです。」「ああ、分からなくなった…」
「いい加減にしてください！」

レジの人は怒っているし、彼の後ろで精算待っている人たちがたくさんいる。すると、彼がまた1枚2枚と数えているのを見て、すぐ後ろにいた黒人男性が「僕が手伝いましょう」と言って、さささと手伝ってくれるんですが、レジの人が「あなたと関係ないでしょ！ なんて手伝うんですか？」

その時、黒人男性の取った態度が賢かったですねえ。完全無視です。

間違いを改めようとしないうちに、一生懸命説得することはしません。無視も1つの有効な手段なんですね。

そして、ずっと数え切った後で2ドル足らなかったんです。（*台を叩きながら）「こっだけ時間かけて、あと2ドル足りないのよ！」と言った時、順番の1番後ろの女性がさーっと来て、財布から2ドル出して「これ使ってください！」 レジの人が「あなたと関係ないでしょ！ なぜこの人を助けるんですか？」

その時、このおばさんが大きな声で、「神様が、毎日私を助けてくださっているからよ！ 神様は理由もないのに、私を毎日毎日助けてくださっているのよ！ 私がこれをして何が悪いの？ あなた、2ドルもらえるんなら、もういいじゃない！」 もうね、スーパー中に響き渡るような声や。

その時、見ていたディレクターが「まあまあ、奥さん。抑えて抑えて。これ、テレビ番組なんです。この失礼なレジの人も役者です。怒らないで。」その女性は泣いてるんですよ。

「どうして助けたんですか？」「私は、人が踏みつけにされているのを見るのが好きじゃないのよ！ ついしゃしゃり出てしまいました。でも、人が人間扱いされてないのを見るのは嫌いなものよ！」よくアメリカの問題で人種差別問題がクローズアップされるけど、いやあ 捨てたもんじゃない。何か、胸が熱くなりました。

「なぜ あなたがそんな支払いするのよ?!」「私は毎日、神様に良くしてもらっているからです。」みんなの目の前で堂々と言った その女性の言葉に感動したし、同時に、これはきっと神様のお心だろうなど。つまり、人間扱いされずに、ないがしろにされたり、踏みつけられたり、侮辱されたり…。神はそれを黙って見ておられる方ではない。

人が人を軽蔑したり、ぞんざいに扱ったりするのは、真の神様から離れて、一人ひとりが自分が1番偉いと思っているからです。

“私はあなたより偉いのよ。だから、私はあなたにぞんざいな態度を取ってもいいのよ。だけど、あなたは私に丁寧になければならない。なぜなら、私はあなたより偉いから。”

いやあ、偉い人が増えました。圧倒的に偉い方を見失っているからです。

しかし、神は私たちが憎々しげに睨みつけている方ではなく、思わずしゃしゃり出て行ったあの女の人のように、思わず人類歴史の中に下りて来られたのです。

神であられるのに人となって、この世界に来てくださった方。人類歴史のコースを良いものに変えてくださる方。あなたの人生を新しくすることが出来る方。それがイエス・キリストです。

今日は、人類歴史に介入した神様のご計画について、短い文章で説明しているところをご一緒に考えてみましょう。

エペソ人への手紙 1章 7節

このキリストにあって、私たちはその血による贖（あがな）い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

ここで言っている神は、人間が作った宗教上の神のことではありません。

人間をお造りになった方。全宇宙の第一原因者。全知全能であられる方。あなたの作者。

この方を聖書は創造主/神と呼んでいます。神様のご性質をひと言で言うと、**豊かな恵みの持ち主**です。これは神の豊かな恵みによることです。と書いてあるように、この方は恵み豊かな方。

恵みとは、受ける資格がない者に対する神様の一方的な愛です。

普通は、成績が良かったり・立派だったり・役に立つ人に様々な愛や称賛が来ますが、愛される理由なんかどこにも見当たらないような罪人に対して一方的に、「大好きだよ、あなたのことが。わたしはあなたを大切に思っているよ！」

罪人・受ける資格のない者に対して、最高の愛で接してくださる方。それが神です。
この神の豊かな恵みによって、3つのものがもたらされました。
エペソ 1:7 から、神の恵みがもたらした3つのものについてご紹介したいと思います。

1) このキリストにあって

神は恵み豊かであられるので人類にキリストを与えてくださった。キリストは人となられた神です。
単なる宗教の・キリスト教の開祖ではありません。人となられた神の御子。
神ご自身であられるのに、人となって来てくださった方。
人なので私たちと同じような弱さを経験なさったけど、罪が無い方なんですね。

先ほどの WWYD のように、殺伐とした状況の中で、モラル性の高い・人として立派な・模範的振る舞いをする人が1人出て来ると、なんか気持ちいいですよ。
世の中、捨てたもんじゃないなあ。私もこんな人になりたいなあ。
ある意味、身を正すような力があると思いますが、でも、模範だけでは人は励まされないんですね。

実は模範を見せられた時、それに倣って同じことが出来る実力のある人が見た時は、その模範は参考になるし、励ましになるんですけど、それを出来そうにない人が見たら、むしろ劣等感を倍増させることになるのではないかと思うんですね。

私が小学4年の時に習字の授業が始まったんですよ。お習字。書道。でね、書道セットというバック、書道に必要な筆も文鎮も墨も一式、全部きれいに収納されるかばんがありました。青いかばんで、ローマ字で“シュウジ”書いてありますねん。今でも覚えてますわ。このピカピカの習字セットもらった時、もうメッチャやる気出たんですよ。“よし、やるぞ！”と。“習字や！”と。

ところで私の子供時代、習字の教室に通う子供と、そろばん塾に通う子供、むちゃくちゃ多かったんです。〈読み書きそろばん〉の〈読む〉以外の〈書く習字とそろばん〉ね、昭和やったんやけど、寺子屋時代の〈読み書きそろばん〉のうちの2つ、塾で行くんですよ。
クラスの大半の子が、もう習字習ってました。だから先生が説明する前に、勝手知ったるで、やり方知ってるんですよ。

下ろし立ての筆ってピンピンやん。固いじゃないですか。みんな適当にくずしてるので、私もそうするのかなと。そしたら根元からボキッ！折れて。最初から。
そして、先生が水を含んだ筆で黒板に達筆な字を書くんです。ほな、水の部分だけ ちょっと色変わるんですよ。ところが、時間と共にすーっと消えていくというね。もう何とも言えないローカルな、そういう授業だったんですけど。

スーッと書いている人を見ると、自分も書けるかなと思うんですがトンデモナイ！
はみ出す。破れる。「高原君、なんで半紙破れんの？」「僕が聞きたいわ」みたいな感じでね。
何か上手くいかない。まあ、たくさんある授業の中で習字くらい、上手くいなくてもどうってことないわと思うけど、作品を後ろの掲示板に貼り出すんですよ。しかも授業参観の直前に。
確か『努力』だったと思いますね。みんな、そこそこ達筆な『努力』。
私の『努力』は ほぼ『脱力』みたいな『努力』やねん。

自分で見ても下手くそな字の両サイドに、達筆なお手本並べられたらね、惨めですよ～。
自分の1枚だけやったら、“勢いがあるいいなあ”みたいに思ってた。だけど、“これが正しい字です！”というのが前後左右に貼り出されたらね、なんかね、やる気失くします。
自分の下手さを何かと比較することによって落ち込むんですね。

私は10年ほど前まで、毎年お招きを受けて、大阪のあるミッションスクールに聖書のお話をしに行っていたんです。ある時泊りがけの会があって、アンケートを取ったんですね。女子中学2年生。
『中学2年生女子の悩み』。今でも覚えてます。ベストスリー。
3位は〈外見とスタイル〉でした。みんな可愛らしいんですよ。だけど〈外見と体型〉。
2位は〈進路と成績〉。1位が〈人間関係〉。これ、一生変わらへん問題やなと思ったけど、中学生の時からも人間関係やん。

体型、何が悩みかという、みんな自分のこと太ってると思ってるんです。太ってへんし。
「太ってへんやん」と。太っていることは悪いこと・醜いこと・ダメなこと。すごい懐いてくれた5-6人の子がおって、「自分らもそんな思てんの?」「思ってますよお！」大阪弁で。
「太ってへんやん」言うたら「太ってますっ!」言い切るんです。「何と比べて太ってんねん?」と聞いたら、その時のある芸能人/女優です。つまり基準がね、いびつやねん、これ。

私たちは象と比べたら皆スレンダーだと思いますよ。象と比べる人はおらんわ。
だけど、自分はいったいどんなもんなのか? 体型は比べなくていいと思いますが、人格の問題でイエスと比べたら、どんな人でも自分は汚(けが)れた男・汚(けが)れた女に思えるんじゃないですか?

先ほどの高齢者にイライラしているレジの人に対して、私も見てて腹立ったんですけど、じゃあ私自身がそのように他人(ひと)にイライラしたことがないのかというと、いっぱいあります。
なんか、自分を正義の立場で見てるけど、自分が加害者だったことって山のようにあったに違いない。

イエスは人の基準として、“これが人なのだ。”“The Mans.”“彼こそは人だ。この人を見よ。”
このイエスという罪の無い方の前に立った時、初めて人間は、“自分は的外れの汚(よご)れた人間なんだ。神にとっても受け入れられるような者ではないんだ”ということに認識することが出来るんですね。このキリストを送ってくださったこと、これが神の恵みの第1番目です。

2) 私たちはその血による贖いを受けた

その血とはイエスの血のことです。イエスの血による贖い。贖いは買い戻すことと考えてください。イエスの血によって、人は何かから買い戻されて自由になるという意味です。

ここで“血”という言葉が出て来たので、ちょっとそこを考えたいと思うんです。
血液は体重の1/13あります。血液の役割は色々あるけど、人が生きて行くためには、各細胞に酸素を送り込まなければなりません。また、栄養分を送り込まなければなりません。と同時に、身体が作り出す老廃物を排泄しなければなりません。

要するに 生命が維持されるためには、身体の隅々に良いものを運び入れ、悪いものを運び出すことが必要なんです。

良いものを細胞に運び込む運搬物質・悪いものを身体の外側に排泄する運搬物質が血です。
この運搬物質がなくなると人は死にます。出血多量でなぜ人が死ぬかという、良いものが入って来ず、悪いものが出て行かなくなるからです。
なので、血というのは命とイコールです。血を失うということは命を失うということです。

血による贖いは“命による贖い”と言い換えることが出来ます。

イエスの血による贖いは、“イエスの命による贖い”という言葉に言い換えることが出来るのです。
この血には有無を言わさぬ力があります。

昔、百姓一揆（ひゃくしょういっき）とか、土佐勤王党（とさきんのうとう）が幕府を倒すために、「我々は同志として団結しよう。そして、どんなことがあっても裏切らないようにしよう。」
自分たちの命懸けの誓いを立てる時に、血判状（けっぱんじょう）というのを書いたんですね。
血判状は、名前の下に、親指を刃物で傷つけて出た血をグッと押すことによって、「命に懸けてこの約束は真実です。わたくしは裏切りません。」血判状。

血には“した約束を覆さない”という誓いの意味がありますねえ。
血。有無を言わさぬ。人を黙らせる。説得力あります。

昨年10月、タイの裁判所で事件がありました。カナーコーンという裁判官が被告人たちに「無罪」と言った直後、銃で自分を撃ったんです。裁判官が裁判に不服な人間から撃たれたのではなく、無罪判決を下した直後、皆が見ている目の前で、銃で自分の胸を撃ったんですよ。バタッ倒れて。
国際ニュースになりました。なぜ彼はそんなことをしたのか？

タイは仏教国です。しかし、タイの南部の方に行くと、タイから分離独立したいマレー系のイスラム武装組織が今 武力闘争してるんです。それでタイの警察や軍隊が出て行って、このイスラームの武力組織に攻撃掛けてます。討伐してます。根絶やしにするために、今ものすごい波状攻撃している。

ところで、南部に行けば行くほどイスラム系タイ人、タイの人だけどイスラム教を信じている人たちが増えるんですね。彼らの一部は武力闘争に賛成ですが、大部分は一線引いてるんです。
だけど、当局には同じ。それで、何か事件が起こったら、イスラム教というだけで、十分な証拠がないにもかかわらず、拷問して・自白を強要して・罪をでっち上げて、そして裁判官も有罪・有罪・有罪！ 刑務所にぶち込んで行く。南部ではそういうことが横行している。

そんな中で、カナーコーン裁判官は「司法の正義と無罪の人を守るために、今自分が出来ることは何か？」 無罪判決出しても、すぐに上級裁判で覆る。みんな国民的な期待として有罪を望んでいる。
「有罪やな。」「こいつ、有罪や。」

この時の被告人は5人なんですよ。南部で5人殺された。犯人は3人が殺人罪、2人が幫助罪（ほうじょざい）ということで挙げられたけど証拠が無い。自白だけです。しかも強要自白です。
調べれば調べるほど、この人たちはシロだ！ しかし、無罪と言っても上級裁判でひっくり返されてしまうので、最終的に有罪になるということが見えている中で、カナーコーン裁判官は自分が出来ることを考えたんですね。

「無罪！」と言って自分が血を流したら、「あの裁判官は命を懸けて無罪を宣告した。」それを有罪にひっくり返すということは、彼の死を犬死（いぬじに）にするということです。犬死になる可能性があります。しかし裁判官として、悪い事してない人に悪人という判決を下すことは出来ない！ 彼らの無罪を守り、同時に司法の正義を確保するために、自分の血を流したんです。これはピッタリのたとえじゃないんですけど。

イエス・キリストは今から2千年ほど前に、十字架に掛かって死んでくださいました。その時に血を流されましたが、それは、十字架の上で命を流されたのと同じです。血は神への献げ物です。そもそも“血”という字は“皿”に“く”が付いてるでしょ。実は お皿は神への献げ物を盛るための容器だったんです。“皿”の上に“く”血の滴（しずく）を付けている。つまり、古代から、血は神への献げ物だったんですね。

中華文明でもずっと遡っていくと、いけにえの血を献げることによって赦してもらうという文化があったんです。というのは、漢民族も源流を辿っていくと、司馬遷（しばせん）の『史記（しき）』によると、漢民族のルーツは中東です。「中東・西側から我々はやって来た」と書いてあるんですよ。つまり、バベルの塔の後で、世界中に人間が散って行ったことの裏付けですよ。だから、最初の頃、“いけにえによって人が迎え入れられる”ということは、共通の文化として持っていたということであると思います。

イエスはご自分の血によって、まず神の正義を守りました。罪は必ず罰を受けなければならない。しかし同時に 罪人を赦したい。罪人を赦しながら、同時に 神の正義を曲げないで済ませる方法は1つしかありませんでした。罪の無いイエスが血を流し、身代わりに刑罰を引き受けるということです。この血によって、罪の刑罰から自由になることを**血による贖い**と言ったんです。

キリストはただ模範を見せて、「これと同じように出来なかったら失格」と言うために来たのではなく、模範を見せたのは、イエスには罪が無いということを示すためでした。罪が無い方が血を流して死んでくださったのは、あなたを庇うためでした。これが**血による贖い**です。

3) 背きの罪の赦しを受けています

キリストの血潮によって人間にもたらされたもの、それは**背きの罪の赦し**です。神に対する反逆の罪を全部清めてくださる。この**背きの罪の赦し**を受けている者は、神から全く責められることなく、神に喜んで迎え入れられる者となるんです。

イギリスのイアンコフという牧師が、冷戦時代に、東ヨーロッパのキリスト伝道者から聞いた体験談を紹介しています。私はそれを読みました。冷戦時代とはヨーロッパが東西に分かれて、西ヨーロッパは資本主義・自由主義の国。東ヨーロッパは共産主義。自由がない。特に信仰の自由がない国です。

その共産主義がまだあった頃、ある東ヨーロッパの国にキリスト伝道者がいました。その手記には名前書いてない。でも、ヨーロッパの読者はみんな知ってるような感じの人です。その国で最も有名な説教者/福音のメッセンジャーだったんですね。実は、政府は彼のメッセージを極秘で録音していたんです。反政府運動を扇動するようなことを言っていないか調べるために、ずーっと極秘で盗聴し、テープに録音していました。

そういう国では、非常に注意深い言葉遣いをしなければなりません。私なんか一発アウトですよ。これ、ほんまに。自由の国やから言ってるけど、日本が共産主義になって行ったら、いや～恐ろしい。皆様も、ここに来るのがはばかれることになるかもしれませんね。

証拠を掴んだということで彼は逮捕され、秘密警察によって尋問受けるのですが、彼のテープが山のようにうず高く置かれていました。

「お前が今まで地下の集会で語って来たメッセージは、全部ここに記録されている。お前が何を語ったか、我々は全部聞いて知っている。お前はメッセージでこう言った。『もう1つの王国があります。その王国をこの地上に実現するために、王が来られる時が来ます。』」

すると、彼は少しも悪びれずに「はい、言いました。私はキリスト伝道者ですから、キリストの国/神の国を宣べ伝えるのは当たり前のことです。確かにそう言いましたが。」

そう言った時、当局がもう怒ったんですねえ。少しも怖気づかないというか、申し訳ないという素振りを見せないということで、その意を汲んで、秘密警察の係官がピストル抜いて、彼のこめかみに当てたんです。「お前、今ここで射殺するぞ。引き金引いたらお前は終わりだ！」

「いいですよ。でも引き金引く前に、2つのこと話させてください。1つ目。私がこの場で殺されるということは、私にとって良いことなんです。私は死んだ直後に天国に行けるんですから。血による贖いを受けている私は、どんなことがあっても永遠の命を失うことはありません。あなたは私の肉体の命を奪うことは出来ても、私の魂の行き先を変更させる力はあなたにはありません。

2つ目。もし私が、自分が語ったメッセージのために、ここで撃たれて血を流し殉教したなら、私の血はこのテープに注がれて、人々は、命を懸けて語ろうとしたメッセージはどんな内容なのかを、もっともっと聞きたがると思いますよ。私が伝えている神に対する信用を、もっともっと持つようになると思いますよ。このメッセージは、私が血を流すことによって、いよいよ箔（はく）が付くんじゃないですか？」

聖書に「捕えられて王の前に出た時、何を言うか前もって考えなくていい。言うべきことは、その時その時に与えられる」って。その時に与えられたんですね。

そしたら、ピストルを元にしまって、なんと無罪解放です。

若い人に聖書の真理を真っ直ぐに解き明かすためには正確な理解が必要です。

その人物は自分の国で聖書の学びのための聖書大学を作り、大きく用いられている。

ちょっと前の話なので、今どうなっているか分かりません。召されたかも分からないんですけど。

どこで死んでも私は天国に迎え入れられる。天国に行ける。血による贖いだから。

同時に、血を流すことによって、その人が語ったメッセージは特別な意味を持つようになりますよ。命を懸けて撤回せずに守り切ったメッセージは、特別な響きと説得力を持つようになりますよ。

キリストは十字架の上で「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」と祈ってくださったんです。血を流しながら。神はイエスの血を伴う祈りのメッセージを聞き流すことは出来ません。血には特別な説得力があるのです。

